

世の中に「あたりまえ」ってことあるのかな？

「ありがとうの反対語は何ですか？」とおたずねしてみることがあります。実はこのことを問いかけるようになったのは、こんなことがあったからです。だいたい前のことになりませんが、幼稚園の教員と話をしていた時のことです。その教員が担任をしている年長組の子どもたちと一緒に、本願寺鹿児島別院に参拝した時のことです。お話を下さった僧侶の方が子どもたちに、「みなさんはありがとうという言葉は知っていますか？では、ありがとうの反対の言葉は何でしょうか？」と尋ねられたのです。その時にその僧侶の方は、すぐに「それはね、当たり前という言葉だよ」と教えてくれました。教員は「今まで考えたこともなかったけれども、あり

がとうの反対は当たり前だと教えていただいて、それから子どもたちとも、いろんな場面で、『当たり前じゃないよね、当たり前全部あると思うだよ』と確認しあって生活することができました。とてもとても大切なことを教えてもらったと思っています」と語りました。私は、「今まで考えたこともなかったけれども」という教員の言葉が印象深く残ったので、お参りの時にたずねてみることにしたのです。実際に「ありがとう」の反対の言葉は何だと思われるか？とお尋ねしてみると、首をかしげる方が多いです。確かに、ありがとうの反対はと言われるとなかなかぴんときませんが、一言、平仮名ではなくて漢字で考えてみてくださいというところ、気がつく方も出てきます。ありがとうは、「有難う」つまり有ることが難しいという言葉です。あなたに感謝しますという

意味だけでなく、私が今ここにいることはどんなに「有ることが難しい」ことであつたか、この出会いがどんなに難しいことであつたかという、驚き・感動の言葉ですね。先日、本堂でのお参りに小学校3年生の女の子が家族と一緒に参りしていました。私はこのお話をしながら、その女の子といっしょに「掛け算」をしてみました。「2×2は4だね。4×2は8だね。8×2は16、16×2は32・・・」3年生ですのであまり数が大きくなるとできませんでしたが、ある程度のところまでは一緒に答えを出しました。そしてこの計算は何なのかを説明しました。「お父さんとお母さんが二人。そのお父さんとお母さんにもお父さんとお母さんがいるから2×2で4人のおじいちゃん、おばあちゃんでしょう。そしたらひいおじいちゃんといひおばあちゃん

10代さかのぼると1,024人、20代だと1,048,576人、30代だと107,374,184人の親がいるという計算になります。そしてその中の一人でも欠けると、私はここにはいないんですね。ここら辺の話になったら、小学生の女の子よりもお父さん、お母さんが、「なるほど」という顔になっていました。いのちの流れということ、ひとつの計算でやってみるだけで「有難さ」がわかります。でも、これはあくまでも数としての計算であつて、その一人一人が、それぞれの時代環境の中で、かけがえない人生を歩まれて、そして私がここにいると思ふと感慨深いですし、いのちの大きさを思います。当たり前なんかじゃないのですね。この世の中に、当たり前って何ひとつなかった、すべてが有ること難し（ありがとう）なんです。心のもし火より

その目を180度転回せよ！ 外を見て批判ばかりしている目を内に向けよ！

わんさん一歩改葬

日出店：速見郡日出町川崎会下(空港道路入口) TEL(0977)72-6415
三重店：豊後大野市三重町赤嶺1041(トライアル横) TEL(0974)22-3301
森町店：大分市横尾2733-1(大東中学入口) TEL(097)524-6525

さんわ便り

ともすれば二度のお礼も欠くるなり三度の箸は忘れざる身も

これは広島県の三次市の小野逸子さんの和歌ということですが、こんな意味ではないかと思えます。どうかすると、大恩ある阿弥陀如来さまへのお礼を欠かすことがあります。朝と夕、たった二度のことですのに。それに引き換え、一日三度の食事をいただくことは決して忘れませんから、結局、如来さまを知らず知らずのうちに粗末にしている私なんです。あさましいことです。この歌の作者の小野さんが、問題とされているのは、

如来さまへのお礼と、三度の食事をすること、どちらを大切にしているか、どちらを中心にして、私は今日の一日を生活しているか、ということ。つまり、「食べる」と、「如来に手を合わせる」と、どちらを人生の中心において生きているのだろうか、仏のおおせが中心なのか、煩惱が中心なのか、ということ。一般的な常識では「合掌することや、お念仏すること」「よりも、食べる」と「第一でしよう。なぜですかと、質問すると「食べなければ死んでしまうから」と答えが返ってくるに違いありません。しかし、その大事な食事をしておきながら、残念ながら、結局は死んで行かねば

死んでゆくことからは誰ひとりとして逃れることが出来ないことは、頭の中では十分に承知しておりますが、

第162号 所部町 行グル さんわ 編集 大分

ならないのが人間です。やがて老いていき、病んでいき、

「めざめ」とは迷いに気づく世界です。「二度のお礼が欠くるなり」とは、迷いに気づいていることばです。一言も言い訳していません。お念仏をもうす身にならせてもらうことは、自分の愚かしさを、知らせてもらいながらの日暮らしです。これまで気づかなかつた自分の相(すがた)を、教えていただくことです。縁に出会えば、何をしでかすかわかりませ

ちょっと物知り 仏教よりきた 日常語

んが、弁解や言い訳をしないですむような、お念仏の生活を おくらせていただきたいものです。 妙念寺電話サービスお電話 ありがとうございました。 悪口(あっこう) 「妄語をいい、綺語を好み、悪口して他を罵(ののし)り、両舌して他の親好を破することを、口の四悪業という」と、『十善法語』という仏書に書かれています。 妄語はうそをつくこと。 綺語は真実にそむいて巧みに飾りたてた言葉。悪口は人をあしざまに言うこと。 両舌は両方の人に違つたことをいい、両者を離間して争わせることで、二枚舌のことです。この4つは、口でしゃべる悪の行為だと

